

| | | |
|--|--------------------------|-------------------------------|
| 【科目名】言語発達障害学実習 | | 【担当教員】阿志賀 大和 |
| 【授業区分】 ST 専門言語聴覚障害学 | 【授業コード】 5-29-1125-0-1 | (メールアドレス) ashiga@nur.ac.jp |
| 【開講時期】3 年次 通年 | 【選択必修】必修 | (オフィスアワー) 来校時に対応 |
| 【単位数】1 | 【コマ数】23 | |
| 【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) <ul style="list-style-type: none"> ・小テストを行い、その点数も成績に反映するため、事前に連絡がない場合またはやむをえない事情を証明できない遅刻・欠席によって小テストを受けられなくても点数を与えない。 ・検査や訓練の演習を交え講義を進めるが、講義・演習中の私語は成績に反映させる。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) <ul style="list-style-type: none"> ・言語発達学、言語発達障害学概論・各論の知識で学んだ知識を基礎に、講義を進めるため復習しておくこと。 ・遅刻、欠席、早退は学則に従う。 | | |
| 【講義概要】 (目的) 言語発達障害とその症状、および原因となる種々の領域との関連を理解したうえで、適切な評価・検査を選択し、訓練計画を立てられることは臨床上なくてはならない重要な技能であるため、言語発達障害領域の評価法、訓練法について理解する。 (方法) <ul style="list-style-type: none"> ・実際の評価バッテリーを用いて相互演習を交え、言語発達障害に対する評価法を学ぶ。 ・実際に全員の前で検査を行ってもらうこともあるため、集中して取り組むこと。 ・症例を通して、評価、訓練計画立案、訓練実施の一連の流れを学ぶ。 | | |
| 【一般教育目標(GIO)】 <ul style="list-style-type: none"> ・言語発達障害とその症状、および原因となる種々の領域との関連を理解したうえで、適切な評価・検査を選択し、訓練計画を立てられる。 【行動目標(SBO)】 <ul style="list-style-type: none"> ・言語発達障害症例について適切に評価を行い、検査結果の解釈を行い、症例に適した訓練計画を立案することができる。 | | |
| 【教科書・リザーブドブック】 藤田郁代監修：《標準言語聴覚障害学》言語発達障害学(第 2 版)、医学書院、2015、¥5,400 | | |
| 【参考書】 石田宏代、大石敬子：言語聴覚士のための言語発達障害学、医歯薬出版、2008. ¥4,620 宇野 彰編著：ことばとこころの発達と障害、永井書店、2007. 7,000 (税抜き) | | |
| 【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規定の GPA 制度に従う。 | | |

平成 26～28 年度入学者用

| | | | | | | | | | |
|---|--|-------------|----------|--------------------------|-----------|----|-------------|-----|-------|
| 小テスト (10%)、レポート (10%)、成果発表 (10%)、受講態度 (10%)、試験成績 (60%) で評価する。 | | | | | | | | | |
| 【達成度評価】 | | 試験 | 小テ スト | レポート | 成 果 発表 | 実技 | ポートフ ォリオ | その他 | 合計 |
| 総合評価割合 | | 60 | 10 | 10 | 10 | 0 | 0 | 10 | 100 点 |
| 評 価 指 標 | 取り込む力・知識 | 60 | 10 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 70 点 |
| | 思考・推論・創造の力 | 0 | 0 | 10 | 0 | 0 | 0 | 0 | 10 |
| | コラボレーションとリーダーシップ | 0 | 0 | 0 | 5 | 0 | 0 | 0 | 5 |
| | 発表力 | 0 | 0 | 0 | 5 | 0 | 0 | 0 | 5 |
| | 学修に取り組む姿勢 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 10 | 10 |
| 【授業日程と内容】 | | | | | | | | | |
| 回数 | 講義内容 | 授業の運営 方法 | | 学修課題(予習・復習) | | | 時間 (分) | | |
| 1 | 言語発達障害学実習概論 言語発達障害の概要、評価の目的を学ぶ | 講義 | | 次コマ冒頭の小テストに むけて復習すること | | | 20 | | |
| 2-3 | 発達・知能検査：ウェクスラー式、田中ビネ ー、新版 K 式、グッドイナフ、津守・稲毛式 | 講義・演習 | | 次コマ冒頭の小テストに むけて復習すること | | | 20 | | |
| 4-5 | 認知検査：K-ABC、フロスティッグ視知覚発 達検査、DN-CAS | 講義・演習 | | 次コマ冒頭の小テストに むけて復習すること | | | 20 | | |
| 6-7 | 言語発達検査：ITPA、<S-S 法>、LC スケ ール、PVT、ことばのテストえほん | 講義・演習 | | 次コマ冒頭の小テストに むけて復習すること | | | 20 | | |
| 8-9 | 質問紙評価法、その他の検査：RCPM、Kohs、 AVLT | 講義・演習 | | 次コマ冒頭の小テストに むけて復習すること | | | 20 | | |
| 10 | 言語発達障害に対する支援 支援までの流れ、支援の枠組みについて学ぶ | 講義 | | 次コマ冒頭の小テストに むけて復習すること | | | 20 | | |
| 11 | 各種アプローチの紹介：語用論的アプローチ、 インリアル法、TEACCH、SST、AAC | 講義 | | 次コマ冒頭の小テストに むけて復習すること | | | 20 | | |
| 12 | 事例検討 1 過去の症例について文献を通して学ぶ | 講義・演習 | | | | | 20 | | |
| 13-14 | 事例検討 2 VTR 事例を通して学ぶ | 講義・演習 | | | | | 20 | | |
| 15-16 | 事例検討 3-1 症例検討を行い、評価・訓練の流れを考える | 講義・演習 | | | | | 20 | | |
| 17-18 | 事例検討 3-2 検討を行った症例に対する教材を作成する | 講義・演習 | | | | | 20 | | |
| 19-20 | 事例検討 3-3 検討症例への教材を模擬訓練形式で発表する | 講義・演習 | | | | | 20 | | |
| 21-22 | 検査・評価実習まとめ これまでに行った検査について復習する | 講義・演習 | | | | | 20 | | |

平成 26～28 年度入学者用

| | | | | |
|----|-------------------|----|--------------------------|----|
| 23 | まとめ これまでの総括を行う | 講義 | 試験にむけてこれまでの 内容を復習すること | 20 |
|----|-------------------|----|--------------------------|----|

※授業日・教室は随時学生ポータルサイトにて配信します。

※ここに示す学修課題の時間は、必要とする授業外の学修時間(授業時間の3倍)に含むべき時間を示します。